

12月末の人口
 世帯数 557世帯
 男 723人
 女 713人
 計 1,436人
 (馬路 1,049人)
 (魚梁瀬 387人)

馬路村 広報 うまじ

平成2年1月20日発行
 第二四号
 編集 馬路村教育委員会
 印刷 安芸印刷



天までとどけ(たこづくり教室)

馬路村民憲章

馬路村は、清流安田川と、魚梁瀬杉の宝庫千本山に象徴される、自然豊かな村です。

わたくしたちは、このふるさとを、こよなく愛し、誇りと自信をもって、心豊かで、活力に満ちた村をつくるため、村制施行百周年を記念して、村民憲章を定めます。

自然を愛し、

美しい村にしよう。

教育と文化を高めよう。

健康な心と体を育てよう。

産業を伸ばし、

すすんで働こう。

あいさつで、ふれあいの

輪をひろげよう。

以上決議する。

平成元年十二月二十五日

高知県安芸郡馬路村議会

今月のスポット

〈 6 月 〉

- 11日 村内一斉清掃
- 19～21日 馬路地区部落対抗バレーボール大会
- 23日 やまびこ親子読書会
- 23～28日 6月定例村議会
- 29日 青少年育成馬路村民会議

〈 7 月 〉

- 15日 フェスティバル魚梁瀬
- 17日 同和教育研究協議会
- 17～8月8日 馬路地区部落対抗ソフトボール大会
- 23日 第15回参議院通常選挙
- 28日 やまびこ親子読書会
- 31～8月26日 親子体操教室(5回)

〈 8 月 〉

- 12～13日 親子図画教室
- 13日 青少年野球大会
- 14日 K U—T V歌って走ってキャラバンバン
- 15日 うまじ温泉まつり
- 20日 中芸地区体育大会
- 21日 夏休み子ども工作教室
- 23日 木工芸教室

〈 9 月 〉

- 4日 村内中学校水泳交歓会
- 12日 馬路地区敬老会
- 14日 魚梁瀬地区敬老会
- 16日 マラソン教室、前夜祭
- 17日 馬路おしどりマラソン第10回記念大会・記念講演会
- 24日 第27回県民体育大会秋季大会
- 25～28日 9月定例村議会
- 26日 やまびこ親子読書会

〈 10 月 〉

- 1日 村内保・小・中合同運動会
- 2日 文化推進協議会
- 13日 村内小学校陸上交歓会
- 〃 魚梁瀬地区はし拳大会
- 14日 魚梁瀬弓射式、浦安の舞
- 15日 魚梁瀬熊野神社秋祭
- 29日 魚梁瀬地区村民運動会

〈 11 月 〉

- 3～4日 第17回馬路村文化祭
- 5日 馬路地区村民運動会
- 6日 「やなせ森林鉄道を走らす会」発足会
- 8日 村内中学校弁論大会
- 12日 土佐寒蘭展
- 15日 村内教育交流会
- 25日 村内芸能発表会

〈 12 月 〉

- 1日 馬路地区はし拳大会
- 2日 馬路熊野神社秋祭
- 3日 舞神楽発表会、奉納相撲大会
- 〃 馬路小・中学校校内相撲大会
- 7日 婦人会講演会
- 20～25日 12月定例村議会
- 25日 たこづくり教室
- 28日 官庁御用納め

フォト・フォーカス



▲8月12・13日 親子図画教室



▲9月14日 敬老会(魚梁瀬地区)



▲10月21日 講演会



▲11月5日 村民運動会



▲12月25日 たこづくり教室

村内あちらこちら

平成二年

元朝のあいさつ

若者の

定住をめざし

馬路村長

西野真司



村民の皆様、あけましておめでとございます。ご家族そろって、輝かしい新春を迎えられたことと存じます。心からお喜びを申し上げます。

私は本日早々に、熊野神社と金林寺薬師堂に初もうでし、本年一年の村の平和と、村民一同のご健勝を祈念して参りました。

さて、旧年は昭和から平成へそして馬路村が明治二十二年、村制を施行して満百年を迎える誠に記念すべき年でありました。

しかし、消費税導入やリクルート事件、農産物問題など大きな議論を呼び、参議院選挙では与野党逆転。総理大臣が三人も交代するなど、特に激動の年でも

ありました。

しかし馬路村は、おかげ様でこれといった災害もなく、まずは平穏な一年であったと考えます。誠にご同慶の至りでありま

す。新年にあたり、本年の村の取り組みについて若干ご報告申し上げます。

魚梁瀬地区の温泉開発もいよいよ本格化、近々二軒の旅館までの配管を行い、三月末までには利用できるようになります。

木工加工場、テニスコート、新しいゲートボール場も三月末までには完成します。引き続き、公立の入浴施設の建設に向けて取り組んで参ります。

馬路地区では、年明け早々からコミュニティセンターうまじの改修工事が始まります。お風呂場、炊事場、フロントの改修とあわせ、廃水とし尿の合併浄化槽を設置するもので、本月中旬から三月下旬まで、全館臨時休業することになります。

村民の皆様、引続き村政にご協力ください。

また、林道西谷朝日出線、滝野線、栃谷線も引続き開設を行

います。

次に、最近話題になっている魚梁瀬森林鉄道については、村の青年達を中心に、走らす会が

結成され、一千万円の募金活動に取り組んでおりますが、村民の皆様もどうぞご協力ください。

村としましても、走らす会や地域の方々と協議を進め、少しでも走らすことができるよう、支援していきたいと考えています。

今、馬路村にとって一番必要なことは、一人でも二人でも多くの若者が村に残ってくれることです。

そして結婚をし、子どもをもうけ、春にはおひな様、五月には鯉のぼりが沢山およぐこと、これが村の活力です。

そこで、村では例のふるさと創生一億円の、そのほとんどを基金とし積立てを行い、運用資金で「若者定住促進事業」を、行うこととしました。いろいろな方法で、若者が村に定住して

くれるよう。また、子どもやお年寄も健康で楽しく暮らせるよう、村づくりを進めたいと考えています。

村民の皆様も、引続き村政にご協力ください。最後に、この一年が皆様にとつていい年でありませう、心から念じて新春のごあいさつと

（平成二年一月一日 記）

今年が午年

平成二年は午年です。

馬は、人間と意思のかような家畜として、昔から親しまれてきました。利口な動物というわけです。

でも、最近では、馬を見かけることが少なくなりました。

八万二千頭——これは、日本で飼われている馬の一番最近の数です。そのほとんどが乗馬用で、農耕馬、ばん馬（荷を引かせる馬）などは少数派です。ちなみに牛は、肉牛、乳牛を中心に約四百七十万頭が飼育されています。



人類が馬を家畜として飼いはじめたのは、牛よりも遅く、紀元前四千年ごろと推定されています。そして今日まで、運搬用、農耕用、乗馬用はもちろん、戦争や狩猟にも馬は登場します。

こうした

馬と人間の密接な関係を反映して、馬についての諺や漢字が豊富です。

「馬がいなくなると、天気がよくなる」とか、「馬がはねると雨になる」という地域があるかと思えば、一方では、「雨になる」のでなく、「晴れる」と、反対の意味を言う地方もあります。馬と人間との関係、その地域の気候条件などの違いによるものでしょう。

馬偏

のつく文字もいろいろあります。駅、駐車場などは現代でも重要な交通用語です。かつて、馬が活躍した時代がしのばれます。

「驚」は、馬が前足を上げて、後ろ足で立ち、上向き意味で、驚いたとき、このような姿勢になります。「驢」は馬がたくさん寄り集まることで、それが「騒がしい」の意味になりました。

ところで、初もうでや合格祈願に奉納する絵馬は、もとは神社や寺に馬を奉納する代わりに、馬の絵を書いたのが始まりとされています。

さて、今年、馬力アップして大いに頑張りますか、それとも馬耳東風……マイペースでのんびりいきますか。いずれにしても、ウマく乗り切りたいものです。



「夫婦仲よく走ろう」を合言葉に、「馬路おしどりマラソン第十回記念大会」が九月十七日曜日、馬路温泉前広場で開催されました。

今回は、村制施行百周年記念事業の一環として、元オリンピック選手の宇佐美彰朗さん（現東海大学助教授）とゆきさん夫婦も特別に参加し、大会を盛り上げていただきました。

また、宇佐美さんには前日の「健康マラソン教室」の実技指導、そして大会終了後の特別記念講演「わがマラソン人生」と題した講演会の講師としてもお願い致しました。

マラソン教室

十六日「健康マラソン教室」には、馬路おしどり走ろう会のメンバーを中心に、村民運動場に百人をこえる参加者がありました。正しいジョギングの仕方について、一時間半の間実技指導を受けました。

第10回記念 馬路おしどり マラソン大会

最初、体の柔軟を中心とした基礎練習から入り、そして体が十分あたたまってから、三千メートルのランニングの反復練習

によって、各自のランニングホームの指導がありました。参加者全員が心地よい汗をかき、オリンピック選手の指導に感激していました。

前夜祭

マラソン教室が終ると、会場を温泉下河原に移して前夜祭です。前夜祭には、村内外の夫婦三十五組と、大会関係者を合わせた約八十人の参加がありました。宇佐美さんには家族（妻・女子小学生・男子園児）で参加していただきました。

料理については、馬路婦人会が受持って焼肉と山菜、柚子をふんだんに使ったの山菜づくしといったふるさと料理。

一年ぶりの再会に杯を重ね、

馬路に集う よろこびを

おしどり準備体操1、2、3



明日にさわらんばあに



マラソン談義に花がさき、いつしか時の立つのも忘れて話込んでいました。また、おしどりマラソン大会の八ミリ映画も上映し、発足当時の様子を懐かしんだり、自分が写っているのを見つけては、また一杯と楽しいひとときでした。

宇佐美さんとは見れば、質問せぬにあり、サインに記念写真にと引っぱりだこ。

予定の時間をかなり過ぎてのおひらき。帰り際には、婦人会の方が折詰にしてくれた山菜ずしを手に、「明日は、必ず走ってくださいよ」と念を押しての解散でした。

おしどりマラソン

いよいよ大会当日。今年のおしどり夫婦参加者は、これまでの最高百三十二組で三キロの部に百九組、五キロの部に二十三組の参加があり、また初の県外組として大阪からも参加がありました。

第十回目を迎え、夫婦に限ら

おばあちゃんも大変です。



れた参加、そして仲良く手をつないでのゴールという大会ルールもやっと定着してきました。

第十回記念大会を迎えるにあたり、全国に先駆けておしどりマラソンを提唱し、発足させるとともに、育成の一翼をにない続けてこられた岡林福督さん（安芸市）に、感謝状と記念品を贈りました。また、発足以来、

今日はなかよく走れました。





スタートは笑顔で

積極的に参画され、スムーズな大会運営に努力された山中茂昌さん、岩城幸茂さん、榊原準助さん、樋口真澄さん(須崎市)の四人の方に、感謝状と記念品を贈りました。

十回連続出場(十五組)の安芸市百走会曾我稔さん(七十二歳) 秋子さん(六十五歳) 夫婦が記念大会にふさわしい、参加者に語らうような選手宣誓が行われました。

伊吹衛章さん、芳子さん夫婦によるおしどり準備体操で体をほぐし、午前十時、西野大会長の号砲を合図に、百三十二組のおしどり夫婦が一斉にスタートしました。

マイペース組、力走組、一人組とそれぞれが三キロ、五キロのコースを楽しく完走されました。

記念講演

昼食後は、馬路体育館で宇佐美さんの「わがマラソン人生」と題した講演を行いました。

宇佐美さんは新潟県出身で、日本大学入学後、本格的に陸上に取組み、二年で早くも箱根駅伝の選手となり、同年初めてのフルマラソン(四二・一九五km)に挑戦し、十一位と健闘されました。

それ以後、国内外のフルマラソン公認大会に四十一回出場、全てに完走され、この間にあって、オリンピック大会に連続三回出場(メキシコ・ミュンヘン・モントリオール)を果すと共に、十一回の優勝を成し遂げています。自己ベスト記録は、昭和四十五年第五回福岡国際マラソン大会での二時間十分三十七秒八

132組のおしどり夫婦が 楽しく走りながら健康の

(当時世界歴代第三位)の優勝タイムです。

講演会場は、約三百人の聴衆で埋まり、講師の身振り、手振りを交えた話にすっかり関入っていました。マラソン入門のエピソードから、走破総距離地球二周(約八万km)を走って今思うこと、そして、健康のためのジョギングとはを、科学的に分析しての話など、人より一汗多く、をモットーに走ってこられた宇佐美さんの話を、みなさん真剣に聞いていました。

時間の制約もあり、あまり質問の時間が取れなくて残念でしたが、これからのまた健康マラソンの励みとなったことでしょう。ありがとうございました。

「人より一汗多く、をモットーに」



- 各賞は次のとおりです。
- (十回連続完走賞)
- 岩崎豊福・好美(室戸市)
 - 寺川好雄・美栄(安芸市)
 - 井上敏雄・文恵(伊野町)
 - 松岡数躬・操(土佐市)
 - 明神惣祐・慎与(須崎市)
 - 北代 平・益枝(伊野町)
 - 岡林幹夫・教子(安芸市)
 - 曾我 稔・秋子(安芸市)
- 小松辰夫・和賀枝(安芸市)
 - 大野 忍・広子(馬路村)
 - 畠中郁穂・勝美(馬路村)
 - 五味一明・栄美(馬路村)
 - 小松幹尚・美佐子(安芸市)
 - 南 生志・潔子(馬路村)
 - 伊吹衛章・芳子(馬路村)
 - 以下、五回連続、百周年記念、郵便局長賞等、六十三組の夫婦が賞を受けました。

交通災害共済に加入を

▼加入資格▲
馬路村の住民基本台帳に記載されている方

▼申込み期間▲

二月一日から三月三十一日

▼申込み先▲

役場総務課または魚梁瀬支所
(婦人会の方が各家庭を訪問して加入をすすめていますのでご利用ください)

▼共済掛金▲

一人当り年間六百元

▼共済期間▲

平成二年四月一日から平成三年三月三十一日まで(ただし、年度途中の加入者は、申込日の翌日から残りの期間まで)
▼対象になる交通事故▲

日本国内で自動車、電車、自動車、原付自転車、軽車両等によりおこった人身事故。

▼見舞金の請求期間▲

被災日から二年以内

掛金は年600円

■災害見舞金

等級	医師の治療期間	金額(万円)
1	死亡(事故当日より180日以内)	80
2	360日以上	18
3	240日以上 360日未満	13
4	150日以上 240日未満	9
5	90日以上 150日未満	6
6	30日以上 90日未満	4
7	7日以上 30日未満	2
8	7日未満	1

▼見舞金の支払制限▲
天災、故意、自殺、交通三悪などによる場合は、見舞金を支払いません。(同乗者が前記事故により災害を受けた場合も含まれます)

▼その他▲

交通事故にあつたら、役場総務課で手続きをしてください。

国民年金の保険料は所得から控除

＝確定申告の時は忘れずに＝

所得税の確定申告の時期がやってきました。国民年金の保険料は、確定申告をする時に「社会保険料」として、所得控除の対象となります。

控除が受けられるのは、平成元年中に納めた保険料で、未納となっていた期間を納めた保険料や、免除期間に対して追納した保険料も含まれ、自分自身の分はもちろん、家族の分として納めた保険料も控除の対象とされますので、忘れずに申告しましょう。

なお、納めた保険料がわからない時は、役場住民課年金係か、社会保険事務所までお問い合わせください。

■平成元年保険料額 (円)

月額	定額	1月～3月	7,700
		4月～12月	8,000
付加保険料		400	
年額	定額	95,100	
	定額 + 付加	99,900	
前納	定額	93,680	
	定額 + 付加	98,360	

＝保健室コーナー＝ 介護教室のご案内

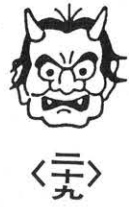
日本は急激に高齢化社会を迎えようとしています。馬路村も例外ではありません。平成元年時点、馬路村では65歳以上の方が276人(全体の18.7%)その内、75歳以上の方が112人います。今後どうなることでしょうか?……。しかし「備えあれば憂いなし」と言います。今!一緒にお年寄りの介護について勉強してみませんか!!

■日程予定表

日 時	内 容
2月20日(火) 13:30～15:00	お年寄りって何だろう? (老人の病気、特徴)
3月5日(月) 13:30～15:00	どうすればいいのかな? (清拭・更衣など、介護の実際)
3月13日(火) 13:30～15:00	何かいい方法はないかな? (福祉制度、社会資源)

場所 就業改善センター一階会議室
申込 どなたでもかまいません。(男性も歓迎)
教室参加希望の方は
2月13日(火)までに
保健婦(4-2557)または
住民課笹岡(4-2111)まで連絡ください。

馬路村の歴史と伝説



馬路の神々④

馬路公民館長 山中 巖

星神社 (土川)

樋川勘次衛門は、大高坂松王丸の家臣でありましたが、戦いに敗れて、奥生にながれ、その土地の豪族の仕客になっていました。その五代目の子孫にあたる勘左衛門は、新しい土地を求めて山川を越え、馬路郷、安田川の上流にたどり着きました。この土地を住居と定め、自分の姓をとって、そこを樋川と名付けました。

勘左衛門は、食糧を得るため田畑を開拓し、川や山に猟をしました。ある日、川漁に行ったところ、川底で何か光るものがあります。手に取り上げてみますと金色の星のように輝いてい

ます。これはただの石ではない。神さまが乗り移った石であると考えました。勘左衛門はその石を大事に持つて帰り、今の明神林に祠を建て、一族の守護神、氏神として星大明神と奉称しました。そして毎年六月、十一月の二回、戌の日を祭日としてお祭りしてきました。

勘左衛門の子孫に当る勘兵衛は、明暦年中に安田川流域の御山番を仰付けられ、明治初年まで勤めました。また山内藩主から乾の苗字をいただきました。年譜指出控によりすると

- 初年 勘兵衛
- 二代 勘兵衛
- 三代 喜三左衛門
- 四代 勘五衛門
- 五代 喜惣右衛門
- 六代 勘蔵

現在、馬路地区にある乾姓はこの勘左衛門から出ているといわれます。

さて、樋川のいわれですが、これと異なった説もあります。「土佐州郡志」によりすると、

次のように記されています。樋川は、樋之尾村に在ります。人々の伝えによりますと、昔、木槌が川を流れてきました。不思議に思つて川をさかのぼつて訪ねて行きますと、はじめて、この村に人が住んでいるのがわかりました。それで樋川と名付けたといわれます。

夷山の神 (西谷口)

この神社は、西谷口南側の高い地に鎮座していましたが、明治四十二年、熊野神社に合併され、跡地は売り払つて、現在個人の所有地になっています。祭神は、大山祇神、東山勝高御師、西山染草御師の三神です。御神体は鏡です。

古来から、旧正月四日、庄屋の先導のもとに弓、鉄砲の口開きがおこなわれた神社です。当日は、馬路地区の獵師全員が集合して、口開きの祭典をおこない、弓、鉄砲の撃ちはじめを盛大におこなう習慣がありました。

「風土記」によりすると、この祭典の後、獵師たちは猪や鹿を追つて山に入り、獲物を庄屋宅へ持参して祝盃をあげたと記されています。

この祭典がすまないと、弓、鉄砲を撃つことができなかつたと考えられます。

教育相談所だより 高校受験を控えた子どもと親

親は慎重な対応を

中学から高校への入学試験はほとんどの子供が経験するものであり、親にとっても緊張と心配をもちます。とかく過保護に育てられている子供にとって、この入学試験は甘えの力で解決しなくてはならないところと受けとられます。ストレスが大きく感情が不安定になったり、表情が硬くなつたりもします。かわいそうと親は思いがちですが、やはりこころは生涯のひとつの岐路、親も慎重に対応してほしいと思います。

子供に親の意見を押しつけない

高校の選択にあたって、親子の意見が対立することがあります。親はこのとき怒つたり、どなつたり、あるいは哀願したりせずに、なぜ親のすすめる高校が嫌いなのか理解できるまで話し合つて下さい。進学するのは子供であつて親ではないのです。

子供の希望をよく聞く

どの高校を受験するか、この決定に父母はおおいに関与してほしいと思います。

子供は子供なりに情報を集め、自分の力を考え、ここを受けたいと希望します。その際に親は子供がなぜB高校でなく、A高校を望むかよく聞いて下さい。校風、卒業生の進路などをよく知る。

親は自分の目でその高校をみていただきたいと思つています。うちの子供の能力や興味に合っているか、卒業生の進路はどうか、先生の評判や校風はどうかというような点です。

資料(中学生のわが子とどう付き合うか)

酒も気合も入り

魚梁瀬・馬路はし拳大会

十月十三日、第十回魚梁瀬地区はし拳大会が、魚梁瀬公民館で行われました。団体戦に十四チーム、個人戦に四十二名の参加があり、酒の勢いでにぎやかに開催されました。

団体戦においては、三年連続優勝をねらった郵便局は二回戦で敗退。優勝候補の消防団A・Bもそれぞれ一回戦で破れる波乱の幕開け。間引きをぬってベスト四に残ったチームは、初出場で不安が残る役場(清岡博之・久保恵美)。

清岡明徳)と異世代集団松茸会(小原千里・山中隆・岡野幸平)それに前回個人優勝の伊吹さん

を先ぼうに据えた婦人会A(伊吹芳子・五百蔵昇子・柗山清)と前回三位の婦人会B(湯浅久美・坂本浪江・藤原寛恵)の四チームでした。

結果は、久保恵美さんの活躍に引張られた役場の初優勝。準優勝と三位には、婦人会A・Bとそれぞれ女性チームが入賞。おしくも松茸会は四位でした。個人戦でも女性の健闘はめざましく、福島雅子さんが初優勝。準優勝に常連の伊吹衛章さん、三位は役場のホープ木下彰二さん、四位は魚梁瀬小学校のアイドル大西佳恵さんでした。

十二月一日、第十八回馬路地区はし拳大会が、就業改善センターで行われました。団体戦に二十五チーム、個人戦に八十一名の参加があり、三上依に分かれて熱戦が繰り広げられました。

団体決勝リーグ戦は、初出場で意気あがる柗親子(清岡敬二・孝子・敬幸)と、実力者がかためた池田組(井上順一・池田精



技能賞 清岡綾子
敢闘賞 木下彰二・伊藤美千子
新人賞 笹岡昌二
実力賞 乾みり子
遠距離賞 松崎兼石
久保田保幸
岡 稔
会社協力賞
ニチフ端子高知工場
ホットファミリー賞
柗親子
フラワーズ

両地区大会には多数の参加をいただき、また各種団体、職場等から寄附を受け、今大会も盛会のうちに終了することができました。誠にありがとうございました。

大会を通して、女性の参加が増えるとともに、めざましい健闘ぶりが見られます。個人、団体戦における優勝をはじめとした上位入賞を勝ち取っています。また、参加チームが団体、職場にとどまらず、趣味のグループ、家族チームと幅広い層にまで広がり、これは村民の親睦を目的とした本大会の趣旨が、十分理解されたものと思われ、次回に向けて練習をつみ、腕をみがいてのご参加を、お待ちしております。

馬路地区はし拳大会 収支決算のお知らせ

馬路地区はし拳愛好会

収入の部

(単位：円)

項目	金額	備考
会費収入	73,000	1,000円×男73人
寄附金収入	125,000	14団体
雑収入	824	預金利子
前期繰越金	93,607	前期大会からの繰越
計	292,431	

支出の部

(単位：円)

項目	金額	備考
トロフィー代	10,000	アフリカ4コ
通信費	9,300	切手代
消耗品費	7,100	テープ、布
おでん材料代	14,892	
会議費	50,000	準備会・反省会
酒代	54,580	大会用
謝礼	25,000	大会手伝い
使用料	3,200	ガスガマ2コ
額ふち・表彰状	27,192	8組分
計	201,264	

※差引91,167円が次期大会へ繰り越されました。

一・門脇武士)そして、会社の応援にこたえないニチフA(甫木修次郎・内原義信・中屋博義)の三チームで争われました。参加二十五チームの頂点に立ったのはニチフAで、第十回大会以来の優勝でした。準優勝は池田組、三位は柗親子でした。個人戦の優勝者は、第十六回大会に続き畠中静穂さん。準優勝には、拳士四段の上総忠さん。三位は、前回準優勝の乾みり子さんでした。

「森林の工芸は、まっことえらいのう」とは敗者の弁。最後は、熱戦を物語るようなはし拳愛好会川本文雄会長の閉会のあいさつで締めくくりました。その他各賞受賞者は、次のとおりです。
殊勲賞 川本龍也・上治香野

伝統と復活

馬路熊野神社秋の大祭



十二月二日と三日の両日に、馬路熊野神社秋の大祭がとり行われました。

二日は、みこしのおなばれ。担ぎ手の若者達は、前日のはし拳大会の酒がまだぬけてない顔つきで、午前九時に神社に集合しました。おなばれにそなえて白装足姿に着え、当人の心配をよそにまたもや景気づけに一杯みこしのおなばれに続き、獅子舞、そして復活に向けての、森林鉄道機関車のデモンストレーション。馬路小・中学生によるおみこしもくり出され、盛大で楽しい一時となりました。



本年から奉納相撲大会は、青

正午過ぎからは、馬路土俵場において、馬路小・中学生による校内相撲大会が行われ、引き続き一般による奉納相撲大会が行われました。

三日は、神社の境内で舞神楽（天の神の神楽・神社神楽）が奉納されました。

本年で復活五年目をむかえ、年々新人の舞い手も増え、心技、体とも充実してきました。昨年から中学生女子（五名）が天の神の神楽の伝承者として、舞の奉納を行っています。境内はたくさんの方の観衆で埋まり、舞い手も日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、力強く華麗に舞っていました。



準優勝 東川（清岡内原秀男）
五藤寿史

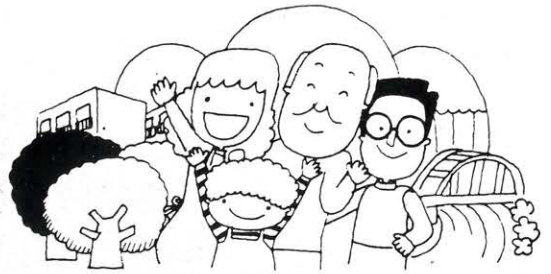
団体戦優勝 青年OB（乾準治・五藤寿史）
準優勝 東川（清岡内原秀男）

年団主催で行われ、寄附金集めに初まり、土俵の整地、周辺の整地、力士集め、そして力士の助っ人と一生懸命でした。参加チームは五チームと少し寂しいものとなったものの、力士にしこ名をつけるなどユニークな発想で大会を盛り上げました。また、恒例の初っ切りでは、岡林先生（奈半利小）の後を引き継いだ吉松正博団長と、ベテランの乾準治さんの二人が熱演、愛きょうのある顔としぐさにより拍手喝さいでした。結果は次のとおりです。



真治・大野源人・清岡信二
個人戦優勝 清岡真治
準優勝 内原秀男
三位 中屋博義
おめでとございました。

つくるページ のひらば



馬路青年団

復活と歩み

馬路青年団長 吉松正博

八月十五日、納涼祭鳴子踊り子隊に初めて参加した。若者が集まった「ガールズ&ボーイズ」約三十五名だ。今まで見に行つたことはあつても、踊りにまで参加するとは考えてもみなかった。

八月の初めごろ、だれとはなしに、納涼祭に参加しようという話が気の合う仲間うちからでてきた。自分達若者をアピール

しよう。今風にアレンジした踊りにしよう。

急ぎよ、乾栄美さんにたのんで安芸へ踊りを習いにいって、五回集まって練習もし、ハッピを借り、パンツもそろえいざ本番へ。

本番では、少し山車に積んだスピーカーの音がひくく、また皆あんまり元気もなかったようだが、それでもみんなでやり遂げた満足感で、後の一杯がうまかつたなあ。

そもそもこれが、馬路青年団の復活ではなかつただろうか。ただ、八月十日には、青年団の組織決定はしていました。

九月に入つて、記念すべき第一回目の定例会を五日に行つた。十七名の団員が集まり、納涼祭の反省と、九月の行事計画について話合つた。

団費を十月から、五百円集めることを決定し、その後やまなみで慰労会を行い、夜の更けるのも忘れ、青年団について語りあかした。酒もたくさんやつたので、後の割には少々こたえた。

九月十二日は、団員募集目的に、青年スポーツ交流会を行つた。午後六時に村民運動場へ集合し、石ひらい、草取りを一時間半ぐらい行つた後、体育館で団員の交流と親睦をかねて、バレーボールの試合を行つた。

毎回行う事業の責任者は、団員みんなで回り持ちとした。今回は伊場公彦君が担当で、開会のあいさつから試合説明と公彦君がやってくが、なかなかうまいもので最初から盛り上がりていく。

勝敗に関係なく、みんな和気あいあい、けなしあつたり、おだてたりの楽しいひとときでした。

九月中は、青年団組織の充実に向け、団員への勧誘等いろいろとやってきました。やっと軌道にのりかかったので、ここが正念場だと自分に言聞かせ、一生懸命やつたつもりです。

団顧問の中屋博義さんと乾準治さんには参加してもらつた。中屋君も準君も、いつも協力してくれたし、いつも夜遅くまで付き合ってくれた。でも、僕より帰りはいつも遅いようだった。

十月十一日は、十月の定例会。青年団復活を記念して、二十八日に、魚梁瀬青年団(団長 皆津宏晃)と馬路村林業青年クラブ(会長 小松博)を交えて、

交流会を開催することを決め、スポーツ担当の責任者に、林寛幸君を決定した。

十月二十八日午後六時、体育館に集合としてあつたが、仕事の関係がいまひとつ集まりが悪い。しかしそんな心配もつかの間、三十分後には、約四十名もの団員、クラブ員が集まってくれました。

最初、小松会長から林業青年クラブの活動状況等についての説明があり、そして魚梁瀬青年団の紹介等の後、四チームに分かれ、バレーボールで心地良い汗を流した。

親睦、慰労会には、西野村長もビールをさげてかけつけてくれました。村長は、馬路青年団復活を本当に喜んでくれ、また物心両面にわたる援助は惜しまないとのあいさつに、みんなで乾杯。

日頃、あまり付き合ひのなかつた魚梁瀬の団員達との交流、そして林業に取り組む先輩クラブ員の話は、本当にためになりました。個人割三千元。これからもよろしく。

十一月は十日、十四日、二十六日、二十九日と集まつたが、各支部では、この他にまだまだ集まつたようだ。それは、今年から奉納相撲を青年団が行うことになったからだ。十二月三日当日に向け、各支部とも必死に

馬路青年団 よろしくお願ひします

- 団長 吉松正博
副団長 伊場公彦・大野源人・木下彰二・笹岡昌二
団員 久保啓二・西山敦志・乾 公栄・大野将司
清岡 巧・清岡信一・林 寛幸・乾 直宏
伊場光子・清岡美智・乾 栄美・清岡ひとみ
顧問 中屋博義・乾 準治
会計 岩城美由姫(1ヶ月500円です)

みんなで 村民

三団体交流会から



なつて寄附金集めに走っている。初めてのことで、とまどい、間違いながらの毎日、でも「青年団か。やりゆうなあ」と言つて、ポンと出してくれる人に会うと、ほっとするやらうれしいやらで、まだまだがんばろうという気がおきてくる。月末には各支部で就業改善センターに寄附金を持ちより、集計しながら寄附金者名簿づくり、そしていきぬかっていたところへの再度のお願い、といったようなことが二、三日繰り返された。

真剣に

「おつと忘れちゃった。土俵を作らないかん。」で、土俵の整備に集まったが、ただうろうろするばかり。どうしていいのかわからなかったところへ、五味一明さんと準治君。一明さんは土俵の赤土、おがくずの段取りから清めの塩まで、さすがになれたものです。

楽しく！

当日、力士の世話から、賞金渡しにいたるまで手伝ってもらい本当にありがとうございました。十一月六日、「やなせ森林鉄道を走らす会」の発足会に参加皆津魚梁瀬青年団長が会長となり、僕が副会長の一人となった。機関車を走らせようと、青年団が中心となつて一千万円を目標にした、募金活動を展開していくこととなった。

た。内原秀男さんが一人で、十五名のまわしを全てかいてくれた。上半身裸になり、汗だくの奮闘に感謝。

本番前に、各力士にしこ名をつけたのが好評で、呼び出しの声に観客は大爆笑。一番一番の相撲を熱心に観戦してもらい、大声援をうけた力士もハッスルし、番外の取り組みも。いままでの苦勞がむくわれた気がしました。一名軟骨を負傷し、病院にかよいましたが大丈夫とのことでした。



十二月三日、いよいよ奉納相撲大会だ。小・中学生の相撲が終りに近付くにつれ、力士が時間どおり集まってきてくれ

元気に！

十二月九日の慰勞会、忘年会はバクハツ。ジャンケン大会、はし拳大会はもとより、二合ぐらいはいるさらに酒を入れての返杯には、さすがにまいった。噴水(ケロ)者続出のうち終了。馬路青年団は、永遠に不滅です。一生懸命やっています。いきって応援願います。

はばたけ未来へ

—馬路村成人式—



一月二日、新たに成人となる若者十五人を迎えての平成二年馬路村成人式が、就業改善センターで催されました。

馬路村では、村内の中学校の卒業生と村内在住の成人を対象としており、今年は二十三名の方が新成人となりました。

成人者のうち、清岡巧君は二チフ端子高知工場、林寛幸君は森林組合土佐マルポー、上総りささんは役場支所と、それぞれ村内で就職されがなはつています。なお、中岡則子さんは、4月から役場職員として採用されています。

成人式を迎えられた方は、次の方達です。()は父母氏名

- 前列右から
 畠中あゆみ(畠中静穂)
 乾 美佐恵(乾 義昭)
 西野村長
 中岡則子 (中岡精一郎)
 山崎良恵 (山崎秋江)
 上総りさ (上総一喜)
 山中知佐乃 (山中忠広)
 谷井博子 (谷井美敏)
 平野由佳 (平野隆志)
- 後列右から
 清岡 巧 (清岡三興)
 伊吹卓哉 (伊吹衛章)
 南 宏昌 (南 磨熙)
 伊吹幸憲 (伊吹公夫)
 林 寛幸 (林 勝利)
 田中靖久 (田中敬久)
 北岡栄進 (北岡幸孝)

馬路・魚梁瀬



掃き寄せてまた一片の柿紅葉
 百合子
 木の實際るいまも一病持つており
 新墓の二つ灯され大根引
 清子

千鶴子
 齡順といえど続く計光すすき
 薬師堂しんしん暗き良夜かな
 うた子

喜美栄
 満天の星稲こきを完了す
 秋の蝶見失いたる曲り角
 麗山子

暮れてゆく坂道や茶の花ざかり
 山茶花のピンクを雨が深くする
 一美
 秋日濃き葬の家の人の数
 生涯は八分の妥協柚子をもぐ

父 母

氏名	性別	年令	死亡年月日	世帯主	続柄	部落
井上 太	男	84才	平元・6・26	仲次郎	父	影
木下 英年	男	83才	平元・9・8	和安	二女	相名
山崎 出	男	74才	平元・10・17	高子	養母	東川
中元 久夫	男	73才	平元・10・22	賢一	父	日浦
内原 博信	男	73才	平元・11・16	圭一	母	朝日出
三宅 孝夫	男	88才	平元・12・6	金次	本人	朝日出

ごめい福をお祈りします

氏名	性別	年令	死亡年月日	世帯主	続柄	部落
千鶴子	女	83才	平元・10・17	高子	養母	東川
うた子	女	74才	平元・10・22	賢一	父	日浦
喜美栄	女	73才	平元・11・16	圭一	母	朝日出
一美	女	88才	平元・12・6	金次	本人	朝日出